

[illegible]

■教業学区の防災まちづくりの視点から見たまちの特性分析（学習会の報告）

昭和2年と現在の地図を比較しても、大きな土地の変化が比較的少ないことがわかります
 —教業学区は明治以降のまちの基本構造が今も色濃く残るまちです—

◆その結果として

- ①主要な道路で幅員4m未満の道路が見られます
 - 4m未満一姉小路通（猪熊通～神泉苑通間）、黒門通（姉小路通以北）
- ②昔のままの路地が多く残ります
 - 行き止まり路地が多く、二方向避難が困難な敷地が多く見られます
- ③路地の入口部がトンネル形式が多く見られます
 - 路地奥での防災面の課題が大きいと言えます



（写真：行き止まり路地）

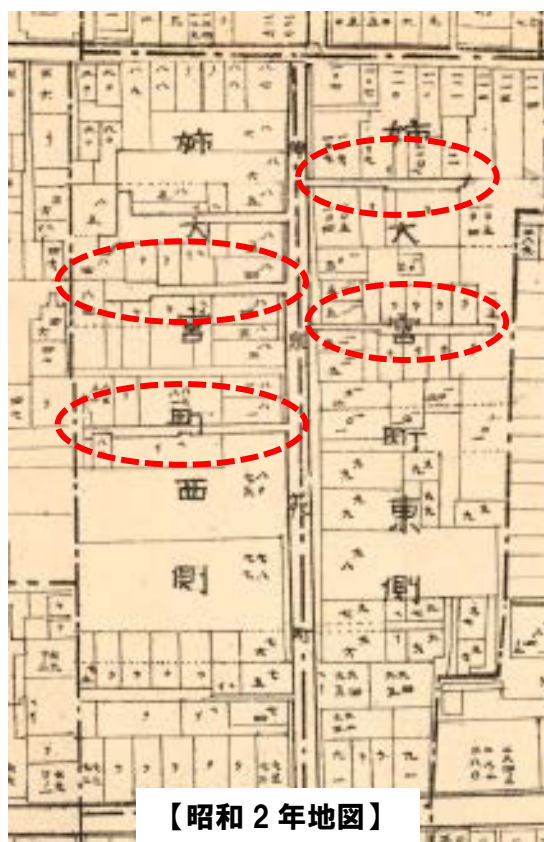


（写真：路地入口部がトンネルの路地）

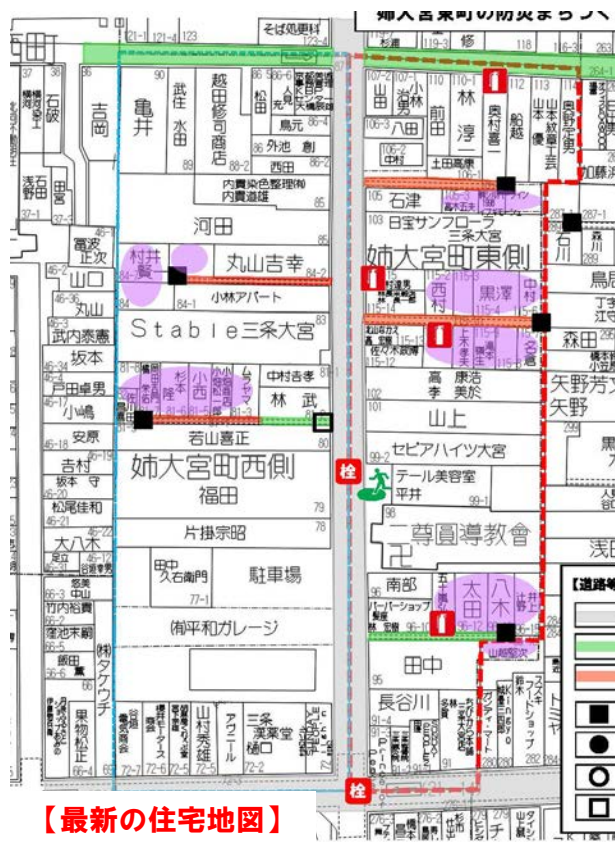


地図比較に見るまちの変化

—昭和2年と現在との比較です（参考事例一姉大宮町東側・西側）



【昭和2年地図】



【最新の住宅地図】

【編集後記】これからは町内会を基本単位に防災面での点検を進めます。今一度みなさんの身の回りのまちの状況を確認して頂き、町内会でまちの防災課題について確認、共有してください。